

Richart ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第207号

ななえ古写真物語

VOL.207

軒を連ねる売店

大沼観光デパートのこと

昭和40年ころか

大沼国定公園内



Nanae Historical
Museum Collection

2024年度の訪日外国人は推計で3億8千万人を越え、過去最高を記録したという。いわれてみれば、当館でも外国人の姿を目にする機会が、年々増えているように感じる。旅先の歴史を知ることは、より深くその土地を理解できるので、博物館がその役割を担う時代になったのだと思う。一方で、オーバーツーリズムといった問題もあるのだが、幸い（残念なことにか？）あまり関係せずに現在に至っている。

七飯町において観光といえば、真っ先に頭に浮かぶ場所として大沼があげられるだろう。その歴史は少なくとも幕末まで遡るのだが、本格的に整備され始めたのは、明治36年以降であることは、過去に発行した本紙でも度々ふれているのだが、いろいろ書き綴っている割に、いまだにわからないことも多数ある。上の写真もそのひとつである。

かつて大沼公園広場にあった売店を撮影したものなのだが、大沼だんごの直売所、牛乳販売、もみぢ屋の荷物預所といった文字が確認できる。また「スタンプ」と書かれている場所もあるので、当館で所蔵しているような大沼の風景絵葉書におされている日付印を押す場所なのだろうか、ほかに「おみやげ」という横看板を軒に掲げた店には、熊のシルエットのようなものが伺えるので、もしかしたら木彫熊の販売をしていたのかもしれない。

かつてこの写真を紹介する時、「大沼にあった観光デパートです」と説明していたのだが、先日同じ場所、同じような長屋風の建物の上部に「デパート」という文字が見られるものを見つけてしまった。その写真には修学旅行生らしき学生服を着た人々が多く写っていたのだが、ここでふっとある疑問が頭をよぎった。それは、デパートでないのなら、この写真の建物はいったい何なのか？というものだ。

調べてみると、大沼観光デパートは昭和43年4月に従来の広場売店を整理して、デパートとして開店したことがわかった。学生が写っていた写真は、43年以降に撮影されたもので、上の写真はそれ以前の可能性が高いということである。では、いつからなのか。『NANA大沼【大沼観光事典】』には、「昭和22年、北海道庁の指示により、公園広場内の売店移動」と「昭和26年、広場売店協同組合設立」という記述がある。おそらく、答えはその頃なのだろうと推察している。折しも戦後の大沼公園は、道立から国立への昇格を目指し、七飯村長や大沼の有志、渡島支庁長などが打ち合わせを重ね、実地踏査も行われている。そのような動きの中で、売店の整備がなされ、組合が発足したという流れなのかもしれない。いずれにせよ推測の域を出ていないので、さらなる調査を続ける予定である。

6日 夜の博物館後期講座第3夜

当館学芸員が「古地図にみるななえ地名考」と題し、昭和3年七飯村字名改正対比表を見ながら、地名由来を複数の文献から紐解きました。地元の参加者が多いことから、興味、関心の高さがうかがえます。対比表に書かれた地名は180ほど。今更ながら、その多さと、どうしてこの地名に？という疑問が生まれます。例えば、鬼柳（おにやなぎ）、念仏屋敷（ねんぶつやしき）、馬カクシ。七飯は、和名や人物由来も多く、調査の続行の必要性和、地名には、歴史・地形・暮らしが見えて面白いということも重ねて伝えました。



22日 ジュニア探検クラブ

遠くに駒ヶ岳を望む、2月の最終土曜日。子どもたちと、大沼の散策です。双眼鏡を持ち、冬芽や野鳥などを観察しました。中でも人気があったのは、小沼近くで現れたエゾリス。松ぼっくりをくわえて佇む表情に、みんな一斉に目で追いました、冬芽や雪の結晶を観察したり、鳥の名前を覚えたり、こわごわ歩いた氷上も、思い出になったかな？「早く歩いていたら、気づいてなかったことを、今日は気づけた。」こんな感想が、何よりの学習です。



小学校の見学も終盤です。

七重小、大中山小、大沼岳陽学校、北斗市谷川小の3年生が見学に訪れてくれた2月。展示室では、元気な声が響き渡ります。ワークシートや石臼、薬研の体験、昔の道具の解説を行いました。皆さんの学習の、お手伝いになったなら幸いです。時々、質問の内容に困惑することもあります。「ちやぶ台は電気をつかうの？」「いろいろの値段は？」等々。子どもたちの変化に対応しつつ、変わらず、伝えなければならないことを確認する2月でした。



1	火	企画展「広告」開催中
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	休館日
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	休館日
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	ピチャリ第208号発行
21	月	休館日
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	ジュニア探検クラブ
27	日	
28	月	休館日
29	火	昭和の日
30	水	

※休館日：7日、14日、21日、28日

答えは台秤

何に使う道具でしょう？子どもたちに問うこの道具。見たこともない道具に即座に言った答えが「ベビーカー」。むしろ台車の方近いのだけど。



編集後記 ~tawagoto~

「昭和100年」が話題らしい。もう3桁なんだ、と思う一方、あと2年程で、令和生まれの小学生も見学に訪れる。ある歴史学者が、「平成30年」は、どこにいき、昭和の刷新をする試みが、なかったかのようになっていることに、疑問を呈した記事を読んだ。数字で物事を図り、本質を見ないような風潮は、感じることもある。歴史の「文脈」を辿り、次の時代へ活かしていくことは仕事の上でも大切だと思っている。

Pichari ~ピチャリ~

第207号

令和7年3月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp